

Macintosh総合誌

August 1996

Vol.7 No.8

Issue 79

# MAC POWER

8

1996

月刊マックパワー

## [ 特集 1 ]

インターネット対応  
猛暑を乗り切る

この夏ホットな  
シェアウェア  
100連発

## [ 特集 2 ]

今が旬! 彩りあざやか

10万円以下の  
カラープリンター  
大集合

## [ TOPICS ]

特撮とCGの結合  
カメラ 2 来襲!

目指すは中国市場  
新中国語入力プログラム  
「BoPoMoFo」



ヒントと来る!

ビタリとわかる!

すべての記事に専門用語解説

Welcome to MacPower.

初心者歓迎

ステップアップ計画実施中

特別定価980円

## [ 速報 ]

Macintosh Performa 6260  
Power Macintosh 6300/120

メディアリッチへと進化した  
QuickTime 2.5

## [ 新製品レビュー ]

Power Macintosh 7600/120

Power Macintosh 7200/120

OKI MICROLINE 803PSIIV+F

Adobe PageMaker 6.0J

UMAX POWERLOOK 2000

AGFA DuoScan / Panasonic CF-L15

Kodak DC20 / Chinon ES-1000

Apple Internet スタートキット

Nikon SCANTOUCH 110 / 210

HEWLETT-PACKARD Japan 日本語MAE2.0

OLYMPUS DELTIS 230MO TURBO +

Canon PowerShot 600 / NEC Aterm IT45DSU

## [ 特別付録CD-ROM ]

Cyberdog 1.0英語版

QuickDraw GX J1-1.1.3

第1特集 シェアウェア100本

シェアウェア200選 / 新着ソフト体験版10本  
各種アップデーター / 連載記事関連データ



## 競合製品

QuarkXPress



Adobe PageMakerとDTP業界を二分する実力の持ち主が米クォーク社の「クォークエクスプレス QuarkXPress」。PageMakerと比べると、高い計算精度と搭載する機能の差によりハイエンドな商業印刷向きといえる。ページの取り扱いが柔軟で、理解しやすいのも特徴。ページ単位の組み替えの使い勝手は秀逸で、折り込みページなどもページアイコンをドラッグするだけで作成できる。プラグイン形式で機能を拡張する構造をPageMakerよりも早くから採用し、PageMakerが標準で搭載するかな詰めやHTML書き出しにもプラグインで対応している。定価19万8000円で実勢価格は約12万円。



# Adobe PageMaker 6.0J

## よろず出版請け負います

Adobe PageMakerはDTPという分野を開拓し、社内報から商業印刷まで幅広いユーザーを獲得した元祖DTPソフトだ。6.0日本語版は、細かな使い勝手を向上してカラー商業印刷に本格的に対応するとともに、HTMLやPDFをサポートし、メディアの変化にいち早く対処している。自らが創り出したDTPという言葉の意味を再定義し、電子出版への移行を加速する同ソフトの真の狙いを探る。

平田 和弘 Hirata Kazuhiro

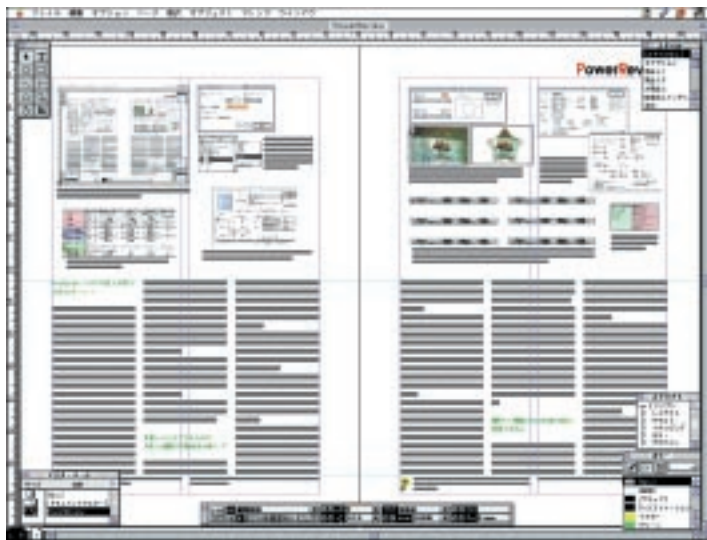


図1 操作画面のフルスクリーンショット。図は21インチ画面での操作例。旧バージョンに比べてパレット操作が増えたが、全体的な操作方法は変わらない。アイテムを設定するのにあちこちのメニューを開かなくてはならないのが不便だ

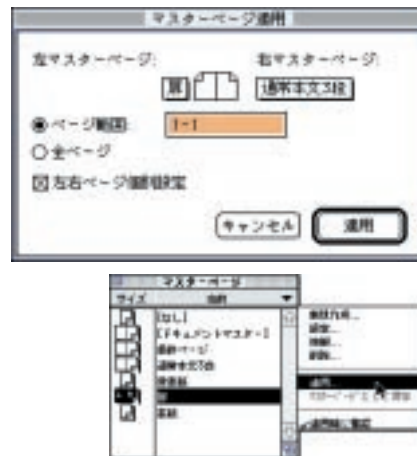


図2 マスターページパレットとマスターページをアプリケーションのページに適用するダイアログ。パレットで新しいマスターページの作成 / 削除 / 適用などの操作ができるのが便利。両面用のマスターページを片面ずつ分割しながら適用できるので、片面専用は無駄なマスターページを作成する必要がない

## DTPの巨人Adobeが放つ 元祖ページレイアウトソフト

アドビ・ページメーカー「Adobe PageMaker」は、DTP<sup>[\*1]</sup>ソフトのパイオニア的な製品だ。前回のアップデートで機能を全般的に見直し、ハイエンドを意識した作りとなった。最新バージョンの6.0は、米アドビ・システムズ社が開発を手がけた最初のバージョンとなる。同社のベストセラーソフト「Photoshop」や「Illustrator」などに見られる、機能と鮮やかに融合したインターフェースの実現を期待したが、今回のアップデートは、旧バージョンを踏襲した操作に大小の機能を追加したものとなった。

主な機能強化は、複数マスターページへの対応、レイヤー機能の改良、ガイド機能の強化、オブジェクトの整列機能の追加、虫眼鏡ツールの追加、多角形ツールの追加、級数のサポート、かな詰め対応フォントの強化、米コダック社のカラーマッチングシステム「KCMS」の採用、オートトラッピング機能の追加、スクリプトパレットの新設、HTML<sup>[\*2]</sup> / PDF<sup>[\*3]</sup>形式でのファイルの保存、プラグインの強化など。基本的なレイアウト操作（～）からグラフィック（ ）テキストハンドリング（、）カラーハンドリング（、）まで、全般的に強化し

	ペースト	割り付けコマンド	引用	OLEリンク	OLEエンベッド
リンク設定	無	割り付け時に自動	引用時に自動	形式選択 ペースト時に設定	オブジェクト 挿入時に指定
リンク解除	無	「リンク設定」 コマンドで可能	「リンク設定」 コマンドで可能	「リンク設定」 コマンドで可能	不可
リンク再設定	無	「リンク設定」 コマンドで可能	「リンク設定」 コマンドで可能	「リンク設定」 コマンドで可能	不可
変更内容の自動更新	無	「リンク設定」 コマンドで設定可能	「リンク設定」 コマンドで設定可能	「リンク設定」 コマンドで設定可能	常時
変更内容の自動更新時の警告	無	「リンク設定」 コマンドで設定可能	「リンク設定」 コマンドで設定可能	「リンク設定」 コマンドで設定可能	無
変更内容の手動更新	無	「リンク設定」 コマンドで設定可能	「リンク設定」 コマンドで設定可能	「リンク設定」 コマンドで設定可能	不可
作成元アプリケーション の起動	不可	[ option ]キー + ダブルクリック	[ option ]キー + ダブルクリック	ダブルクリック	ダブルクリック
作成元とは異なる アプリケーションの起動	不可	[ shift ]キー + 「元データ編集」コマンド	不可	不可	不可
ファイル保存場所	内部	内部 / 外部	外部	内部 / 外部	内部

表1 アイテムを割り付ける方法と特徴をまとめた。似たような操作で動作が少しずつ異なるため、煩雑な印象を受ける

ている。別アプリケーションとして付属する表作成ソフト「Table Editor」も「Adobe Table」となり、EPS形式での保存が可能になった。

さらに、急速に広がりつつある電子メディアに対応すべく追加したHTML / PDF形式ファイルの作成機能に、Adobe PageMakerの将来と真のハイパーテキストを実現しようとする同社の戦略をかいま見ることができる。

## 目新しさには欠けるが 充実の機能で作業効率を大幅アップ

基本となるレイアウト操作の最大の改善点

は、マスターページを複数作成できるようになったことだ。旧バージョンでは1つのファイルに1種類のマスターページしか持てなかったため、本誌のようにさまざまなレイアウトが存在する誌面作りには工夫が必要だった。

本バージョンでは片面 / 両面用のマスターページを無制限に作成できる（図1）。一方で「マスターページパレット」を採用し、操作性の低下を防いでいる（図2）。

レイアウト可能なページの大きさは旧来通り片面が両面見開きのみで、折り込みページのような見開きで片面2ページ分を超える大きさのページに対応しなかったことが残念だ。



[\*1] DTP デスクトップ・パブリッシングの略。パソコンを使って出版物を作成すること。



[\*2] HTML ハイパー・テキスト・マークアップ・ランゲージの略。WWWでブラウザに表示するときの書式を規定した言語。

[\*3] PDF ポータブル・ドキュメント・フォーマットの略。米アドビ・システムズ社が提唱するドキュメントの規格。文書中の表示フォントがインストールされていなくても、自動的に最も近いフォントに変換して表示するなど、ドキュメント配布に適した機能を備える。





図3 新採用の「ガイドマネージャ」。等間隔のガイドがすぐに作れるので、簡単な表作成などに使える



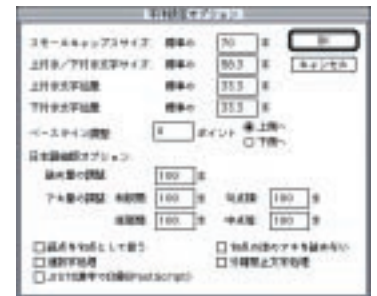
図4 多角形ツールで作成した星形でイメージをマスクしてみた。多角形をドラッグすればイメージのマスクされる部分を変えられる。マスクするグラフィックとマスクされるイメージはグループ化できる

旧バージョンから対応していたフォント リュウミン L-KL 中ゴシック BBB 太ミン A101 太ゴ B101 じゅん 101	新規対応フォント 見出しゴ MB31 見出しミン MA31 新正楷書 CBSK1 リュウミン R/M/B/H/U -KL 新ゴ L/R/M/B/U じゅん 34/501 ゴシック MB101 B/H/U 平成明朝 W3 平成角ゴシック W5
---------------------------------------------------------------------------------	-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

表2 かな詰めが可能なフォント。漢字Talk 7に付属のTrueTypeフォントもサポートする。旧バージョンとは異なり、使用しているフォントごとに詰めの設定を変更する必要はない



図5 組版のオプションが豊富になった。文字の種類別に間隔を細かく設定できるため、より自然な文字組みができる



レイアウトできるアイテムは、テキスト、画像ファイル、多角形や円などのグラフィック、スプレッドシートで、アイテムの割り付け方法を強化した。メニューコマンドからディレクトリーダイアログを呼び出してファイルを選択する従来の「割り付け」に加えて、ドラッグ&ドロップによるペースト/引用/OLE<sup>〔\*4〕</sup>リンク/エンベッドを使い分けられる(表1)。

ドラッグ&ドロップでは、同機能に対応するアプリケーションやクリッピングファイル、PageMakerの文書ウィンドウなどからアイテムをダイレクトに割り付けられる。割り付け方法が豊富になったことで、特定のアイテムを一括して更新するなど利便性は増したが、使い分けはかなり煩雑だ。

ガイドはマージンガイドとコラムガイドのほか、垂直/水平ガイドを最大120本まで設定できる。新機能の「ガイドマネージャ」で、等間隔のガイドの自動作成やライブラリー化などが可能だ(図3)。また、「アレンジ」メニューの「オブジェクトを揃える」コマンドで複数のアイテムの位置を揃えられるようになった。揃えるアイテムの基準位置/方向/整列/分配を指定でき、複数の

アイテムをバランスよくレイアウトする作業の効率が向上した。

旧バージョンでは重なったアイテムのうち背面のほうをドラッグすると前面に出てきたが、今回は前後関係を維持するように変更した。使い勝手はこちらのほうが自然だ。虫眼鏡ツールもようやくツールパレットにお目見えした。[*i*]キー + [shift]キー + [スペース]パーを押しながらマウスを操作する従来方式に比べて、大変使いやすくなった。虫眼鏡ツールは、画面の表示倍率を25~800パーセントまで2倍間隔で6段階に切り替えられる。ツールパレットの虫眼鏡ツールをダブルクリックすると表示倍率が等倍になるが、倍率一覧をメニューに表示し選択する機能を付けたほうが便利だ。

## 画像マスク機能とかな詰め対応を強化しページの表現力を向上

グラフィックの作画機能はこれまでの直線/矩形/円に多角形を追加した。作成できる多角形の種類は、正多角形と星形で、頂点の数は3~100個まで設定できる。星形は各辺の凹み具合を調整できる。パスや任

意の頂点を持つ多角形の作画機能は搭載しない。

任意のアイテムを他のグラフィックでマスクできるようになった(図4)。マスクにできるのはPageMaker上で作成したグラフィックのみで、テキスト/割り付けたPICT画像/Illustratorのパス<sup>〔\*5〕</sup>などではマスクできない。複数のグラフィックでマスクすることもできないため、マスクの形状は単純なものに限られる。マスクとマスクされるアイテムの相対的な位置は変更できる。

テキストはテキストブロック別に縦書き/横書き/コラムの数を設定でき、縦中横(縦組み中の部分的な横書き文字)/ルビ/傍点/傍線の付加/ドロップキャップ<sup>〔\*6〕</sup>

などが作成できる。旧バージョンからかな詰め機能を搭載しているが、対応するフォントの種類を5書体から25書体に増やした(表2)。また、丸括弧、括弧、記号などの組版規則、和文、英単語、英字の間隔や行送りの基準位置の変更、自動/手動カーニング、書体/サイズに連動するトラッキング編集など豊富な機能を取りそろえる(図5)。

文字サイズの単位にポイントと級数を使用

〔\*4〕OLE 通称「オレ」。マイクロソフト社が提唱するオブジェクトの連結と埋め込みに関する規格。Mac OSの発行/引用と同様の機能を実現する。

〔\*5〕パス イラストレーターなどポストスクリプトを利用するソフトで使用する、線分や輪郭などのオブジェクトのこと。

〔\*6〕ドロップキャップ 段落の文頭でフォントの大きさを1文字だけ変更して強調すること。次の行まで文字がはみ出して「落ちて」いるように見える。

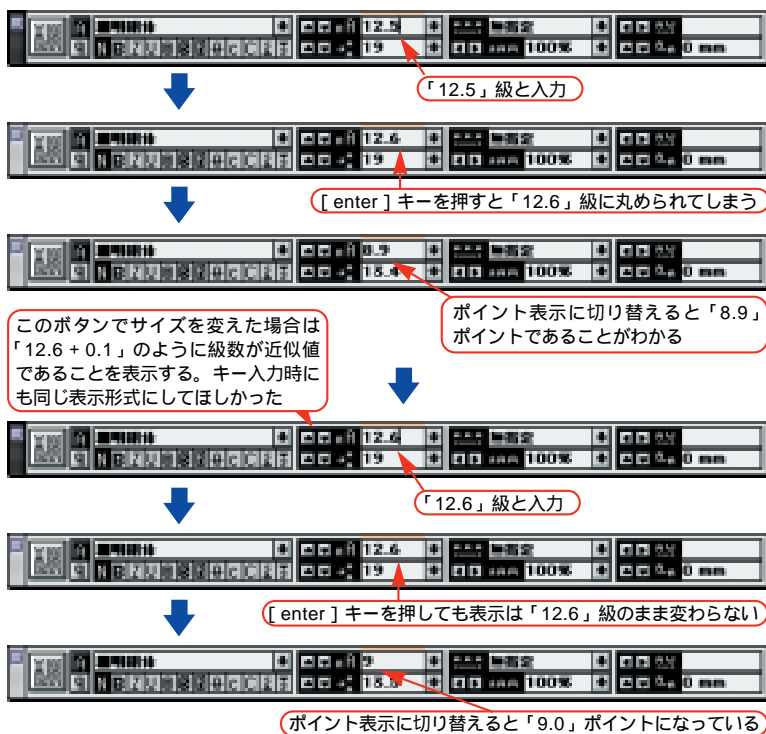


図6 級数で文字サイズを入力できるようになったが、0.1ポイント単位の近似値に置換されてしまう。図のように、表示が同じでも実際の文字サイズが異なる場合があるのは問題だ

できるようになった。ただし、級数を用いている場合でも精度は0.1ポイントのため、厳密な指定はできない(図6)。1ポイントの大きさは厳密には2.27分の1インチだが、PostScript標準の72分の1インチを使用しており、変更できない。

### 自動トラッピング機能を搭載 実用度を増したカラー機能

カラーパレットの機能を強化し、アイテムの塗り色/線の色/濃度を手軽に設定できるようになった(図7)。カラーライブラリーもこれまでのTOYO Color Finderに加えて、DIC/PANTONE/マンセルなどを追加し実用度を増した。

カラー分版ではオーバープリント<sup>[\*7]</sup>と抜き合わせ<sup>[\*8]</sup>を指定できる。オーバープリントでは、任意のグラフィック/カラー/オブジェクトにオーバープリントを設定できる。抜き合わせには自動トラッピング機能を追加し、実用的なカラー印刷に対応した(図8)。トラッピングの方法は、隣り合う2

色のうち淡い色を濃い色に重ねるオーバーラッピング手法で、濃度差が少ない場合は自動的にセンターライントラッピングを行う。またトラッピングする隣接色との差の限界やインクごとのND値<sup>[\*9]</sup>が変更できる。テキストではトラッピングする最小サイズを指定できる。

カラーマッチングに米コダック社のKCMSを採用し、色管理の手間を大幅に軽減する(図9)。使用機器に合わせたカスタムプロファイルを作成するには、別途「Kodak Precision Color Calibration Kit」が必要になるが、実際の印刷色をシミュレートして画面で確認することが可能だ。

### 紙/パッケージ/ネットワーク…… 多様化していくメディアに対応

HTMLは一昨年来、急速な普及を見せている。HTML/PDFファイルの作成機能を搭載したことで、印刷以外のメディアに進出する道が開けた。Adobe PageMakerが

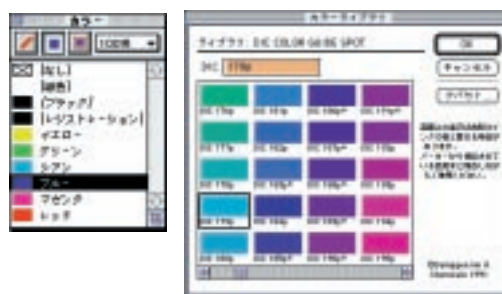


図7 カラーパレットには、線の色/塗りの色/両方を選択するボタンと濃度を指定するポップアップメニューを追加した。小さな変化ながら使い勝手は大きく向上している。カラーを編集するダイアログなどもマスターページパレット同様の方法で呼び出せるとよかった。「カラーライブラリー」の充実も喜ばしい。図はDICのライブラリー



図8 カラー分版に欠かせないトラッピング機能。トラップする条件やトラップの幅などを設定できる。オーバープリントはオブジェクトや特定の色に設定できる

らHTMLを直接書き出せるようになったため、これまで出版のために集積してきた情報や手法を電子的に再利用しやすくなり、出版物のデジタル化を加速するだろう。

HTMLに書き出せるのはパブリケーションの任意のページか一連のテキストブロックで、グラフィックはインライングラフィック(テキスト中に配置したグラフィック)のみとなる。他サイトへのリンクはURLの記述により可能で、アンカー<sup>[\*10]</sup>は500個まで設定できる。

書き出されるHTMLファイルは、PageMakerのスタイルをHTMLタグに変換したものだ。タグの対応は変更できるが、出力するのはHTML 2.0の一部のタグに限られる(図10、表3)。HTMLブラウザの標準となったNetscape Navigatorが独自に拡張したタグなどは追加できない。

使用できる画像フォーマットはGIFとJPEGで、そのほかのフォーマットはサポートしない。せめてMac標準のPICT画像をサポートし、フォーマットを自動的に変換し



[\*7] オーバープリント 商業印刷では4色に分解してそれぞれの色を重ねてページを印刷するが、例外として特定の色(特色)の版を後から加えることがある。このとき、特色を2つ以上重ねてインキを混ぜることに別色の作り出す方法をオーバープリントと呼ぶ。

[\*8] 抜き合わせ 特色を使った印刷のうち、色が重なる部分のみ下になる部分を印刷しない方法。色を重ねることによる濁りを防げる。

[\*9] ND値 インキの中間濃度のこと。



図9 カラーマッチングを設定するダイアログ。KCMSが補正した色をモニター上で確認できるなどの高度な機能を持つが、計算にはマシンパワーを要する



図10 HTMLへ書き出すファイルは、基本的にPageMakerのスタイルをHTMLタグに変換したものだ。従って、レイアウト作業でスタイルをきちんと使用しないと意味がない。図のダイアログでタグの対応をカスタマイズできるため、オリジナルのスタイルもタグに対応づけられる

分類	スタイルタグ
HTML見出しスタイル	TITLE H1、H2、H3、H4、H5、H6
HTML機能スタイル	ADDRESS BLOCKQUOTE BODY Text MENU List OL List PREFORMATTED UL List
HTML強調スタイル	CITE CODE DEFINITION EMPHASIS SAMPLE STRONG

表3 PageMakerが対応しているHTMLタグ。ブラウザの進歩が速く、次々と新しい機能が追加されるため、タグを追加できないのが本当に残念だ

てほしかった。

ホームページ上のレイアウトが、PageMakerでのレイアウトとはかなり異なる点は要注意だ(図11)。タグの種類の制限や、画像ファイルにインライングラフィックしかサポートしていないことによる限界だが、このままでは素材としての画像ファイルやレイアウトもホームページ専用で作成せざるを得ない。印刷物とホームページのレイアウトファイルを共通化することが目的ではないにしても、PageMakerの手軽で高度なレイアウト機能が生かせない点は残念だ。

PDFファイルは同社のAcrobat Readerなどで読める電子文書だ。Windowsなどの他プラットフォームでも、PageMakerで作成したレイアウトイメージを崩すことなく表示できる。PDF作成用のPostScriptファイルを書き出し、実際のPDFファイルは付属の「Acrobat Distiller」で作成する。ただし、日本語に対応した「Acrobat Distiller」は未発売で、現在は英語版のPDFしか作成できない。

## 築いた路線を自ら引き直し DTPの将来に 打ち立てたマイルストーン

米アドビ・システムズ社がPageMakerを手に入れたことによって、DTP業界の地図が大きく塗り替えられようとしていることは間違いない。しかし、PageMaker 6.0Jはその一翼を担う製品としてはやや魅力に欠ける。電子文書への対応強化など、PageMakerとDTPの将来をうかがい知る

図11 PageMakerでレイアウトしたページ(左)をHTMLファイルに書き出し、Netscape 2.0で表示した(右)レイアウト上では2段組みだが、ホームページ上ではフラットになっている。サウンドやカウンターなどは、作成されたHTMLファイル別に編集することになる

側面はあるものの、依然として発展途上であると言わざるを得ない。

機能的には競合製品に負けない充実ぶりだが、機能の追加が先行してインターフェースが追いついていない印象だ。コントロールパレットやカラーパレットの細かな改良で使い勝手は向上しているが、多機能を無理な

く使い込めるまでには至っていない。

前回の「0.5」のアップデートに比べると今回の変化は小さく感じられるところが多いが、DTPの可能性を広げ、新たな分野への進出を図ろうとする意欲作であることは間違いない。



## Power DATA

総合評価 ●●●●

期待したインターフェースの改良は小幅に留まったが、電子出版への対応を大幅に推し進める姿勢に将来の期待がかかる。

機能	●●●●	カラー印刷機能の強化や新メディアへの対応と盛りだくさん。
処理速度	●●●●	機能を追加したが旧バージョンのスピードを維持。
操作性	●●●	機能が散在している。インターフェースの抜本的な改良を望む。
マニュアル	●●●	機能の多さから、ポイントごとにサマリーが欲しい。
エコロジ度	●●●●	標準的なパッケージ。
プライス/パフォーマンス	●●●●	DTPユーザーに幅広く対応する機能と先進性。

対応機種 全機種、Power Macシリーズ(ネイティブ対応)/対応システム 漢字Talk 7.1以上/価格 6万4800円/問い合わせ先(TEL) ㈱システムソフト(092-752-5264) ㈱ソフトウェア・トゥー(03-3797-9721) ㈱メディアヴィジョン(03-3222-6841)

\*評価基準は、jが5つで現在のMacのハード/ソフトの環境で最高位にある製品を意味する。さらにユーザーに勧められるか否かの点からプライスパフォーマンスの点数を2倍とし、他の項目の点数を単純に加算して6で割ったものが総合評価

【\*10】アンカー HTMLタグの一種で、クリックして移動する場合の目印となるタグのこと。